

明 楊 爭 座 位 帖

惺遠藏本

十一月

日金紫光祿

大夫檢校刑部尚書

同國

顏真卿

謹寫書于

奉

相國曾郡

同國

顏真卿

謹寫書于

奉

右僕射之襄

郡王

郭

同下

蓋

太上

有立德其久有立功是謂不朽也

又

力

是

謂

不朽也

又

力

是

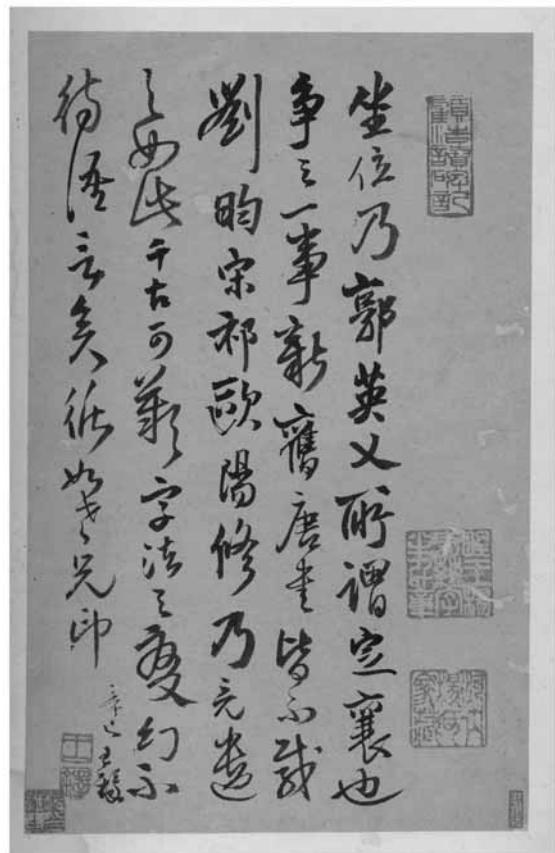
謂



「落ち穂拾い記」①

顏真卿『争座位帖』

図②「王鐸の跋文」



図③

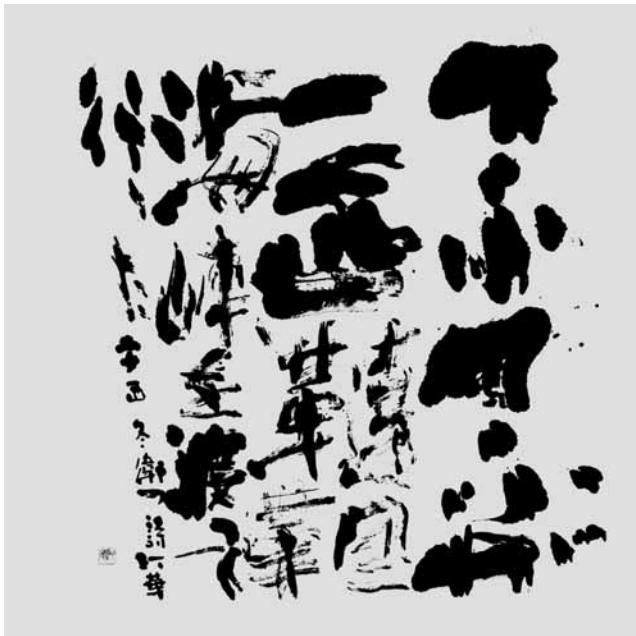


高校2年から3年に進級し進路を決める頃に、これまでの工学系から書道に変更した。その当時、在学していた学校に、今はなき稻村雲洞先生が在職しておられた。先生の指導のもとで、進路を東京の大学に定め、東京学芸大の書道科に進学した。昭和39年(1964)のことである。大学では、田辺萬平、伊東參州先生等に指導を受け、個人的には稻村雲洞先生の師である宇野雪村先生の東京の自宅で、週1回のレッスンにも参加した。半世紀を振り返ると、書道碑法帖研究に関しては、大学4年生頃まで指導を受けた宇野雪村先生の影響が大きいように感じている。水曜日の夜の自宅でのレッスンの終了後、お茶を頂きながら、書道界のことや碑法帖、収藏品等を惜しげもなく、私達学生に見せていただいた事は、今でも目に浮かぶ。こうした影響から、書道科卒業後は、東洋史学の方に進学した。目標は、東洋史学の世界を見ることであつたが、何もできず、中国書道の古典とされる「碑法帖拓本」の世界に関心を奪われ、今に至る。大学の1年の頃に学芸大の先輩に連れられ、神保町の古書店を教えられた。学生時代は、碑法帖の戦前や戦後に印刷された優品や珍しいものを購入していたが、3、4生

の頃、賞状を書くアルバイトの給料を手にして神保町を巡っていたときに、顏真卿の『争座位帖』の原拓本に出会った。これが、印刷本ではなく、原拓本を購入した最初であろう。その後、更に碑法帖金石拓本に興味、関心が増すにつれ、数多くの『争座位帖』に巡り合ったが、この本は、表紙などを修理し、今もなお所蔵している(図③)。いつの頃からか、「争座位帖」に関しては、中国、日本の新旧の印刷本、原刻拓本(原碑は西安碑林博物館所蔵)、日本や中国の翻刻拓本(原刻拓本をもとに作り直したもの)など、また填墨したもの、新しい拓本、やや古いもの、明時代の旧拓本、また折帖に製本されたもの、拓したままの整拓本など様々な「碑法帖拓本見本」となるよう、日につくものは、何でも集めるようになった。主図版に示したのは、二十数年前であろうか。中国からの留学生に、購入してくれと持ち込まれた王鐸等の跋(図②)のある「争座位帖」の明拓本である。「拓調」「旧さ」「名家旧藏」「伝来」「跋文」などの面から見ても、日本にある「争座位帖」の名品と比べて、劣るものではないであろう。

書道芸術院

令和の群像 (2020)



「安西冬衛詩」

横田汀華書



横田汀華

「古代文字にロマンをのせて」

写真の作品は、昨年、宮城県内の書展に出品したものである。題材は、安西冬衛の「てふてふが一匹難船海峡を渡って行った」とい

う詩である。寸法は、3尺×3尺。私は以前にもこの詩を書いたことがある。好きな詩の一つである。

この詩に出でてくる「てふてふ」に想いは膨らむ。そんな私の勝手な想いを表現できればと思い、30年以上の歳月を経ての再挑戦であった。

制作にあたっては、前回は構成に凝ったが、今回は筆触を大切にと思い筆に任せて書いた。筆や紙に心を託せたかと問いかけてみると空回りに終わらなかつただろうかなど、反省すべき点は多々ある。ベストを尽した1枚をとは思つてゐるが、時間的制約や技量的問題等で、はからずも妥協せざるを得ないのも常である。マンネリを防ぐには、悪戦苦闘を続けるしかないのであろう。

私の書との係わりは、昭和46年小野寺逢仙先生の教室に入ったのが始まりである。それから48年の

歳月が流れ、私を取り巻く環境も変化した。先生も亡くなり、安波会々員として過ごした日々も遠いものとなつた。

8年前の震災直後のある日、私は夥しい数の張り紙の前で立ち竦んでいた。圧倒的な力で呼び掛けているそれらの紙片は、安否の確認や居所を知らせるものであつた。私も折角書いてゆくのであれば、訴える力を持つた作品を書いて行ければと思う。

近頃、私の筆は軸が傷み何本も修理した。津波に洗われ続け、取り出すことが中々出来なかつた筆は、今頃になつて悲鳴をあげているようだ。その都度、当時に引く戻される思いである。

末尾になりましたが、震災時には色々なお心配りを頂きましたこと、この機会をお借りし御礼申し上げます。ありがとうございまし

庚子新春を寿ぐ

頌

春

庚子
大雲書



3

2020令和2年の新しき年を迎えるに幸いです。皆様のご多幸をお祈りします。

本年は2020東京オリンピック・パラリンピック開催の年となり、昨年来慌ただしい気分で迎えました。昨年は「令和」の新しい元号となり、新しい気運に満ちた年でした。2年目となりやや落ち着くのかなと思いきや、世紀の祭典が50数年ぶりに日本で開催されることとなり、夏の本番までオリンピック・パラリンピックモードになります。皆様方にはくれぐれもご自愛くださいますようお願い申し上げます。

本院は本年2月に第73回書道芸術院展を迎えます。既に一般公募・無鑑査の鑑別審査は終了し、1月末には審候以上の特別賞選考、そして開会へと継続してまいります。今回は全国学生書道展でのワークショップを新たに企画し、書芸術文化の普及、発展に寄与したいと思います。

また本年8月には恒例の単位認定講習会を岡山県鷺羽山にて開催、10月の秋季展、併催の「書道芸術院の書」「現代詩文書」「17人展」、更に海外交流事業としてオーストリア・ウィーン市、日本との友好関係樹立100周年を迎えるスロバキアでの展覧会・ワークショップも企画しております。11月23日創立記念日講演会など、諸事業を一つ一つ着実に実施してまいりたいと思います。

皆様方の更なるご協力、ご支援を切にお願いし、新年のご挨拶とします。

令和2年元旦
公益財団法人書道芸術院理事長

辻元大雲
役員一同

書のひろば

理事長 辻 元 大雲

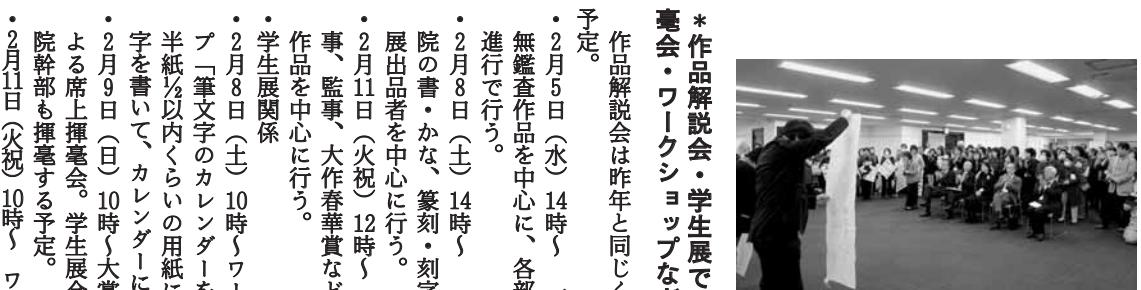
明けましておめでとうございます。
本年もよろしくお願ひいたします。

第73回書道芸術院展一般公募・無
鑑別審査終了

12月2日、第73回書道芸術院展一般
公募・無鑑査の作品搬入が行われ、14・
15両日例年通り東京文具共和会館にて
鑑別審査会が行われた。今回展では無
鑑査の減少が50点と大きく、一般公募
は29点減少となった。減少傾向はまだ
止まらず、憂慮される。

鑑別審査は当番審査員、審査委員、
審査部、総務部等総勢162名が2日間に
亘り、慎重かつ公平、温かな配慮も交
えつ行った。漢字部・現代詩文書部
は事務処理を一日目に行つたが、その
他の部はほぼ一日で事務処理まで完了
した。担当された当番審査員・審査委
員その他関係各位のご努力に感謝申し
上げたい。

総務部・審査部には事前の搬入整理、
諸準備などご苦労をいただいている。
今後来年の役員作品書類搬入(1月17
日)、作品搬入(1月27日)、特別賞選
考(1月28・29日)と継続する。2月
4日陳列、5日から11日までの東京都
美術館での会期、9日(日)は学生展・
一般展の表彰式、祝賀会が帝国ホテル
でと進行していく予定である。

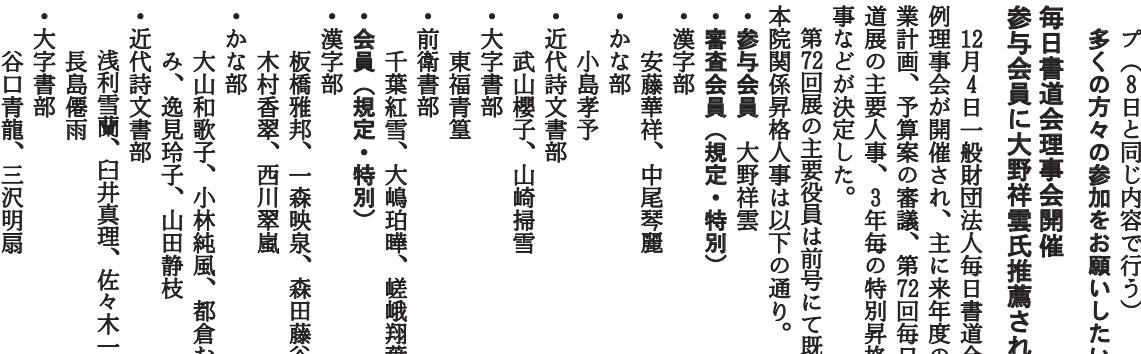


審査風景

*作品解説会・学生展での席上揮毫会・ワークショップなど開催

作品解説会は昨年と同じく3回行う
予定。

- 2月5日(水) 14時 一般公募
無鑑査作品を中心に、各部審査主任
進行で行う。
- 2月8日(土) 14時 「書道芸術」
院の書・かな、篆刻・刻字、前衛」
出品者を中心に行う。
- 2月11日(火祝) 12時 第1室理
事、監事、大作春華賞など上位入賞
作品を中心に行う。
- 学生展関係
- 2月8日(土) 10時 ワークショッ
プ「筆文字のカレンダーを作ろう」
木村香翠、西川翠風
大山和歌子、小林純風、都倉むつ
み、逸見玲子、山田静枝
- 漢字部
- 千葉紅雪、大島珀瞳、嵯峨翔葉
- 会員(規定・特別)
- 東福青箪
- 前衛書部
- 武山櫻子、山崎掃雪
- 大字書部
- 小島孝予
- 安藤華祥、中尾琴麗
- かな部
- 同運営委員 下谷洋子
- 同運営委員 鬼頭墨峻
- 同運営委員 種谷萬城ほか
- 同運営委員 下谷洋子
- 55回展審査委員長 鬼頭墨峻
- 同運営副委員長 種谷萬城ほか
- 同運営委員 下谷洋子
- 当番審査員
- 55回大会記念事業
- ① 記念賞新設
- ② 上位入賞者招待訪中団派遣



毎日書道会理事会開催 参与会員に大野祥雲氏推薦される

多くの方々の参加をお願いしたい。

普(8日と同じ内容で行う)

12月4日一般財團法人毎日書道会定
例理事会が開催され、主に来年度の事
業計画、予算案の審議、第72回毎日書
道展の主要人事、3年毎の特別昇格人
事などが決定した。

第72回展の主要役員は前号にて既報。

本院関係昇格人事は以下の通り。

・ 参与会員 大野祥雲

・ 審査会員(規定・特別)

・ 漢字部

・ 安藤華祥、中尾琴麗

・ かな部

・ 小島孝予

・ 千葉紅雪、大島珀瞳、嵯峨翔葉

・ 大字書部

・ 東福青箪

・ 前衛書部

・ 武山櫻子、山崎掃雪

・ 大字書部

・ 小島孝予

・ 千葉紅雪、大島珀瞳、嵯峨翔葉

・ 会員(規定・特別)

・ 東福青箪

・ 前衛書部

・ 板橋雅邦、一森映泉、森田藤谷、

・ 木村香翠、西川翠風

・ 大山和歌子、小林純風、都倉むつ
み、逸見玲子、山田静枝

・ 近代詩文書部

・ 浅利雪蘭、白井真理、佐々木一峰、

・ 谷口青龍、三沢明扇

・ 刻字部
佐藤紫水
・ 前衛書部
富澤理恵子
(会友昇格は略)

今年2月3日開催の第72回毎日書道
展運営委員会にて、会員賞選考委員・
当番審査員・審査、総務、陳列など各
部委員も決定する。

高野山書道協会理事会開催

12月8日、高野山書道協会定例理事
会が開催され、平成31年度事業報告の
他、第55回記念大会の主要人事などが
決定した。

会に於て決定する。

弘法大師賞・大臣賞・記念賞受賞

者を中国旅行に招待する。

日程はオリンピック関連で8月実施

が困難な為、時期をずらす予定。

*学生、一般共半紙作品での応募とな
る。多くの皆さんのご出品をお願いし
たい。

・ 作 品 締 切 令和2年5月中旬

・ 出 品 料 1点(10点まで)

・ 学 生 350円、一般700円

・ 献 書 も 同じ

現代詩文書 (四)

高田幽玄

かな (四)

須田清子

意先筆後

日本詩文書作家協会主催の「春季研究会」は、「豪快な表現」「繊細な表現」そして「素朴な表現」の三通りの作品を、六つの指定された詩文を素材に書きわけよというものです。

この三つのイメージを書作に具体化するというのは、高度な技術が要求されますので、極めて困難なことだと思われます。これは書論でいう「意先筆後」の現代版です。筆を執る前にきちんと構想を練ることが大切だということです。要するに只無自覺的に書くではなく、ある明確な制作意図のもと主体的な創作が求められています。「豪快」と「繊細」は反対の概念です。前者は少々の破綻は構わ

ずに、ダイナミックな荒々しいタッチ、表現を表にしてゆくという情熱的なイメージです。後者はじっくりと落ち着いた筆使い、澄んだ線、明るい作品構成、じっくりと鑑賞し得る作風、詩情豊かなと評される作風です。

「素朴」はなかなか捉えにくい概念です。洗練される以前の未完成の美、いかにも平凡でしかもそれがそのまま魅力となっているものとも言いましょうか。

これらをどう表現するかは、やはり優れた書の古典を幅広く研究してゆくことが大切だと思います。又現代の多くの優れた作品を鑑賞し、その作家の技法を読み取り、技術と感性を磨いてゆきたいと思っております。



令和元年書道芸術院秋季展 「金」

高田幽玄書

量とリズム感を良く觀てとる。

「臨書の大切さ」

作品を創作する上で、古典を臨書することが重要である。かな学習においても然り。臨書は古人の書を真似して書くことであり、その事によって、書法を掴もうすること。

実際に筆を執って書いて習う「手習い」と、それに対して

古典の作品をよく觀る「目習い」がある。手本の優れたところを掴んで自分の力とするためには、

「熟観」ないし「熟看」に時間を費やしていくことが大切。つまり勉強する対象となる古典を決めたら、前記のやり方でひたすら打ち込む。

(一)全体を良く眺める。墨の使い方、文字と文字との間合い。余白の関係、そしてその文字一つ一つの強弱、文字の肉付き、又連綿の

量とリズム感を良く觀てとる。

(二)行の構成がどうなっているか、全體にどのような変化で作品が統一されているかを觀る。

(三)用筆による変化を觀てとる。

1 文字の中での開閉、捻、順、逆筆などを良く觀て豊かな表現となっている様子を学ぶ。

この様な分析的な理解のもとに臨書していくことが大切だ。

写真の作品は平成24年の書泉会展での針切の拡大臨書作だが原本より少々文字に太い細いを加え、多少立体感が出るようにしたが、前述の論が成されているかは自問するところだ。臨書した古典が自分の創作した作品の血となり肉となるのは日々の精進しかないと思つてている。



平成24年書泉会展

須田清子書

書道芸術院創立記念日 特別公開講演会

令和元年11月23日(土・祝)
於 上野精養軒

「書と国際文化交流」

講師 荒船清彦先生

△公開講演会△

理事長 辻元大雲

昭和22年11月23日、本院は創立され、

本年73回目の記念日を迎えた。恒例の特別講演会は、外務省外交官として世界各地で活躍され、ご退任後全国書美術振興会会长に着任され、書道界に

大変ご貢献をいただいている荒船清彦先生を講師にお迎えし、「書と国際文化交流」と題してご講演をいただいた。

当日午前中は通常理事会を開間、評議員にオブザーバー参加していただき、第73回書道芸術院展開催細目、関係人事、第71回全国学生書道展審査結果などのほか、単位認定岡山講習会開催要項原案、ウイーン展報告等を審議した。

講師の荒船先生は東京大学法医学部をご卒業後、外務省に赴任、外務大臣審議官として種々の重責を担われ、アジア、アフリカ、欧州、南北アメリカなどで特命全権大使として世界各地でご活躍された。ご退任後乞われて全国書美術振興会会长として迎えられ、会長の傍ら、書写書道教育推進協議会会长、

長としてもお務めになられ、現在は名譽顧問としてご尽力いただいている。

ご講演内容は先生の豊富な外交官、海外交流などのご経験をもとに、趣味の域を超える書道との関わり、書への

想いなどを、ご用意していただいたスライド、レジュメ資料(19頁)を参考

に、具体的かつ多彩な内容で、参会の250余名の聴衆を魅了した。講演概略は以下の通り。

1、日本書道と私 ①書を趣味として

70余年②人生初の展覧会看板揮毫 ③日本書道センターの茶室と看板(刻字作品)

2、日本書道の世界的位置づけ ①日

本書道は何故芸術たりうるか
西洋カリグラフィーの特徴 ③イ
スラムのカリグラフィー ④事前

3、広報の重要性
試論、日本書道とは

①日頃の外

交活動での非公式接触の重要性

②海外生活での書道の効用 ③海
外広報での苦労 ④生活文化とし

ての書道
以上講演の骨子である。国際交流における書の重要性を強く訴えられ、我々書道芸術院への大きなエールを送つて

いたいたことに感謝。
講演会終了後は会場を移して、院創立記念の祝賀懇親会が、荒船先生を囲んで賑やかに開催された。



講師の荒船先生



講演会会場

△懇親会

事務局次長 片岡 豪峰

創立記念日の行事として、理事会・公開講演会に統いて、多くの皆様に参加いただきました懇親会が行われました。懇親会は始めに（公財）書道芸術院辻元大雲理事長の挨拶、講演に統いて参加いただきました荒船清彦先生にご挨拶をいただきました。次に毎日書道会の西村修一専務理事の乾杯とともに和やかな雰囲気の中で会が始まりました。全国各地から会員が集う数少ない機会のため会場のあちらこちらで話の輪が広がっていました。

今年の秋季展が台風直撃のため表彰式を講演会に先駆けて実施されました。秋季菊花賞俊英賞の受賞者の皆さんをこの場で披露させていただきました。

この後、参加されている総局支局報告先生方からはこの1年の総局支局報告として行事報告・行事予定・展覧会案内等が紹介されました。辻元大雲理事長が千葉県文化の日功労者表彰（文化功労）を、小伏竹村顧問が池田市市制施行80周年の感謝状を、柳町祥香先生が八戸市の文化功労者と院の先生方が各地で表彰されたことをご披露いたしました。また、関西総局から来年恩地春洋先生の遺墨展の開催が予定されること、村野大仙先生の遺墨展案内

などいろいろな報告・案内がありました。

また、辻元理事長から下谷洋子常務理事が現代書道二十人展に選出されたことのお披露目があり、1月3日から毎日書道会主催「現代の書 新春展」銀座で開催されること、1月4日から和光ホール、セントラルミュージアム東京銀座画廊美術館で毎日チャリティーエキシビション、来年は4月22日からの開催になる「現代女流書100人展」の出品者の先生方の紹介もありました。その他これから院関係の先生方の展覧会も数多く紹介されました。

中締めは顧問の小伏竹村にお願いし、とても充実した楽しい会が無事終了しました。



毎日書道会西村修一様の乾杯



秋季展受賞者紹介



辻元大雲理事長の挨拶



荒船清彦先生と役員の先生方



小伏竹村顧問による閉会



古典鑑賞

禮器碑
(後漢・156年) ①

解説

礼器碑は、孔子廟を修理し、祭器を修造して礼樂を復興した魯國の宰相韓勅の徳をたたえるため、永寿2年(156)、今の山東省曲阜市の孔子廟に建てられた。孔子の中に位置する漢魏碑刻陳列館に現存する。「魯相韓勅造孔廟礼器碑」「韓明府修孔子廟碑」ともいう。碑はタテ165cm×ヨコ74cm。碑陽・碑陰・左右の碑側からなる四面刻で、正面の碑陽には16行、行ごとに36字で、序文と銘文および韓勅ら9人の題名が刻されている。書風は正統的で謹厳であり、整齊な字形の完成された隸書である。曹全碑とともに、明時代から清時代前期にかけての隸書復興期にもっとも高い評価を得、以来八分様式の典型として重んじられてい

※掲載図版65%縮小

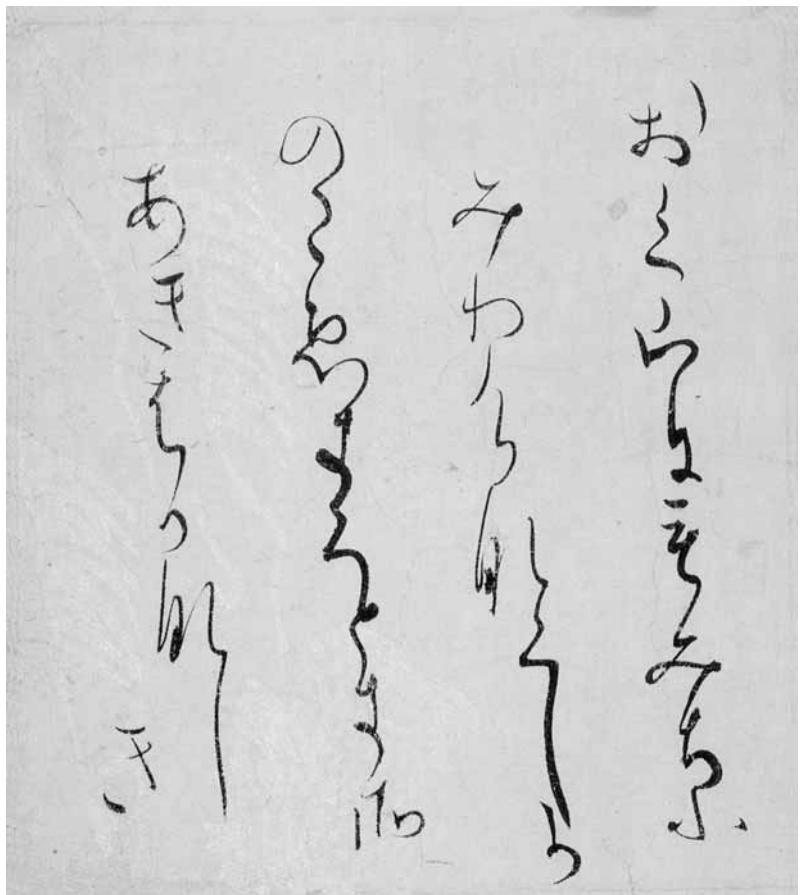
※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨（押印のみも可）

惟永壽二年。青龍在涒歎。霜月之靈。皇極之日。魯相河南原韓君。

漢字研究部臨書課題 = (半紙普通判・縦使用) 上記掲載部分より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題 = (毎日展公募サイズ以内・縦横自由) 当該古典の上記掲載部分以外も可。

寸松庵色紙（云紀貫之筆）①



※掲載図版は原寸。

〈よみ〉
おく山おぐさん
にもみぢふ
みわけなくしか
のこゑきくときぞ
あきはかなしき

〈解説〉寸松庵色紙は、京都大徳寺龍光院内の茶室を伴った寸松庵という塔頭（大寺の中の小寺院）に、現在確認できる40枚のうちの12枚が伝わったことからこの名がある。「古今和歌集」の四季の歌一首を方形の料紙に散らし書きしたもので、詞書は省略し、作者名のみを記している。茶道と縁の深い大徳寺に伝来したことから、茶席での掛け物としても尊重されている。寸松庵色紙は、総色紙、升色紙とともに三色紙とよばれ、流麗な筆線による連綿の美しさと、我が国特有の表現法である散らし書きによって、平安朝古筆の代表的な名筆とされている。

(編集部)

※「寸松庵色紙」は、たて11.9cm　よこ10.4cmの
枠（原寸大）を半紙にとり、その中に上
記の歌一首を書く。（料紙を裁断して貼付
も可）

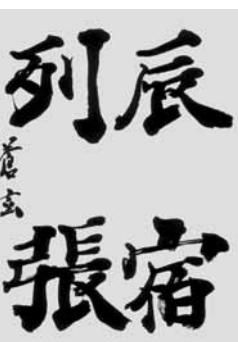
※落款を必ず入れる。落款は枠外に書く。
○○臨、印のみも可。（枠外に押印）

かな研究部臨書課題 半紙普通判（料紙可）縦長に使用

特別研究部
臨書課題
(毎日展公募サイズ以内・縦横自由)
上記の掲載以外も可。

千葉蒼玄
（千字文）

辰宿列張
（千字文）



参考作品

辰宿は星座をさすが、普通は星宿と使われる。千字も同じ漢字を使わないので文章を作ることは困難だったようで、造語があるが、千字文を基にして始まつた言葉も多い。列張はその言葉通り連なって広がっていくという意味。今回は隸書。隸書の特徴は①逆入②字形が扁平③右上がりにしない④一画ごとに入筆しなおす⑤一字一波磔（一字の中で波磔が1箇所）である。参考に光明皇后の楽毅論風の楷書を載せた。

辰宿列張 よみ（辰宿列張）

書体＝自由



習い方解説 四

坂本素雪

神清智明
(神清く智明か)

画数が8画から12画と多くもなく少なくもなく、比較的全体が均等な仕上がりになる事だと思います。

「神」=偏と旁の高低でバランスを考えて書く。

「清」=月の1画目は払うより止めた方が安定する(上に物があるために)

「智」=知を右肩上がりに構成し、日を押し込む様に布置する。

「明」=日をあまり小さくせず大きめにすると安定します。



神清智明 よみ(神清く智明か)

書体=楷書

かな規定 初段以上【二月十五日締めきり】用紙 半紙普通判(料紙可)

平川峰子選書

習い方解説 (一)

平川峰子

雲なくておぼるなりとも見ゆるかな
霞かかる春の夜の月

(西行(山家集))

散らし書きの構成を上下二段に分けてみました。日本人の不均衡の中に美しさを見い出す美意識を大切にして、行の高低や墨の潤渴などの変化を工夫しましょう。

墨継ぎは春で。気を付けるところは、2段に分けて書いているとはっきり判読してもらうことです。

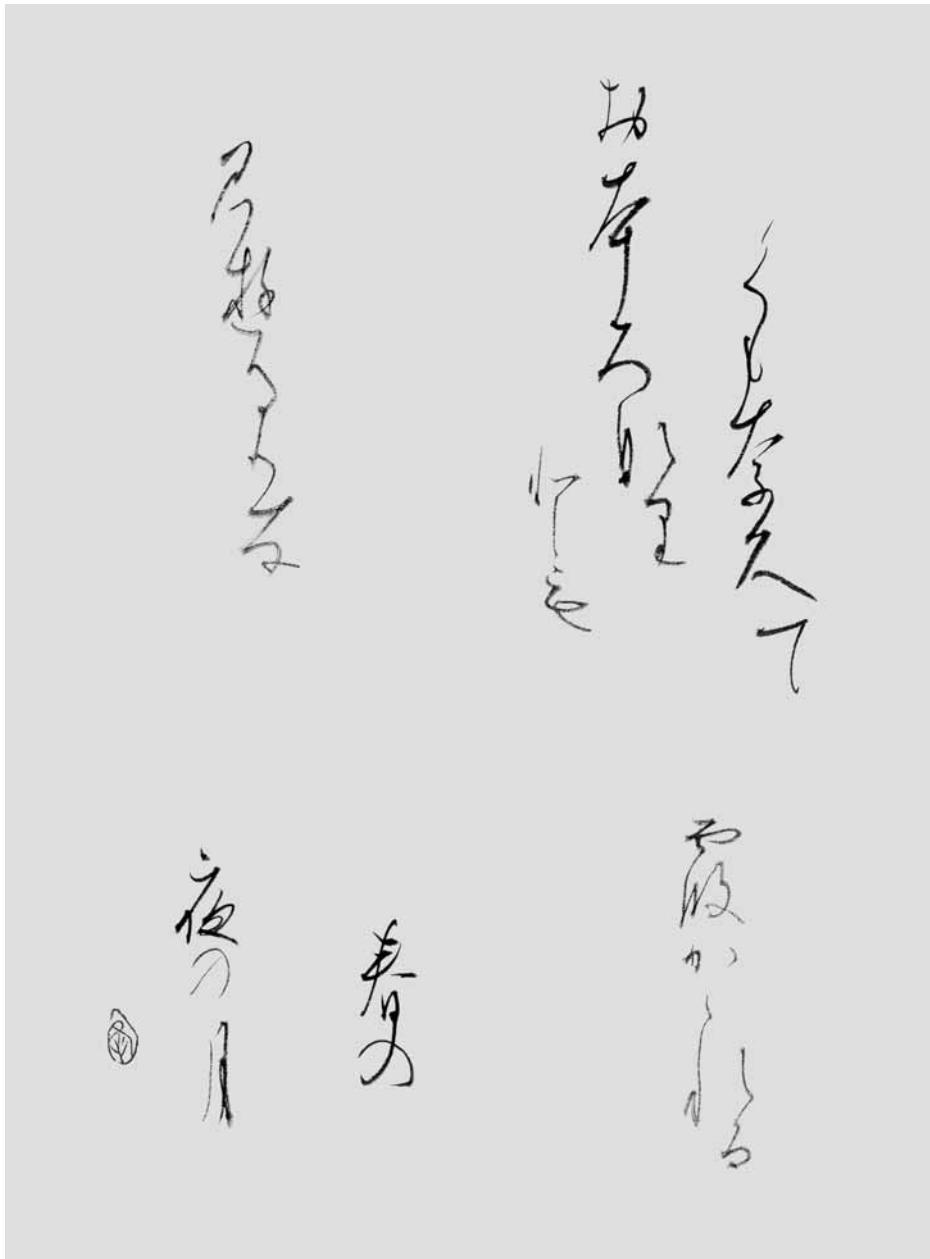
かな作品を書く場合、同じ文字のくり返しを避けたり、構成に変化を持たせるため変体がなを用います。よく似た変体がなが有りますので字典で確認することをおすすめします。又、漢字を変体がなに置き換える時は古語辞典で旧かな違いを調べることも重要です。

よみ方

雲(久も)な(奈)く(久)ておぼ(本)ろな(那)り(里)と(登)も(毛)見ゆ(遊)るか(可)な(奈)

霞かかる(月)れる春の夜の月

創作

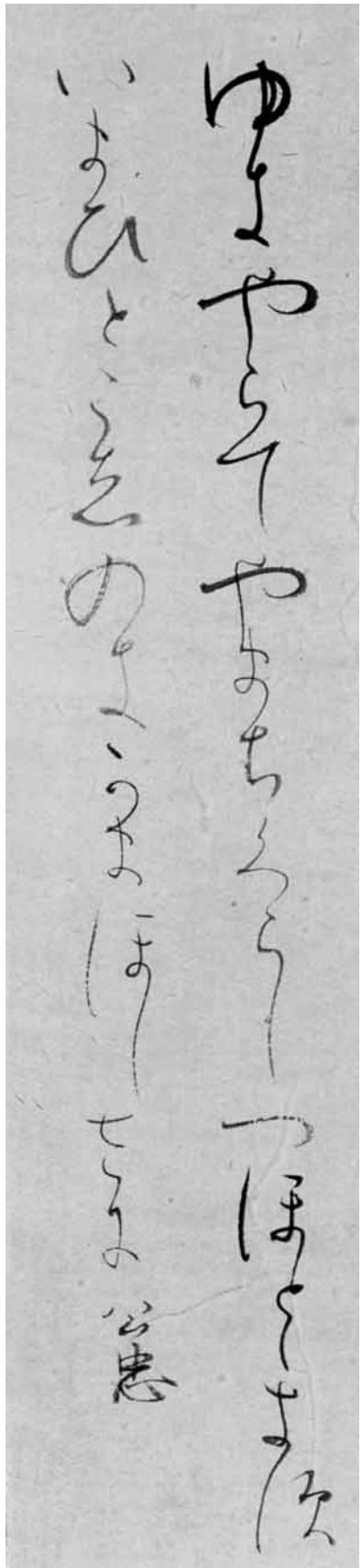


かな規定 秀級以下【一月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ 〔料紙可〕(たて32センチ・よこ12センチ)

粘葉本和漢朗詠集

掲載写真の和歌を臨書する。または部分（2字以上の連綿または単体を含む）を臨書する。

(掲載写真拡大120%)



習い方解説

松村
くに子

正月立つ 春の初めに かくしつつ
相し笑みてば 時じけめやも
(大伴家持(万葉集))

新年の歌です。

「正月の春の初めに、このようにしてお互い笑い合えばいつでも樂へること」という意。

正月十二日，初五，向
午相于其人，是其时也。

かな条幅規定【二月十五日締め切り】用紙 小画仙紙半切（料紙可）

松村くに子選書

よみ方 正月立(多)つ(徒)春(盤る)の初め(免)に(耳)かくし(四)つ(川)つ(ゝ)

相し(事)笑み(見)てば(八)時じけ(介)めやも

創作

漢字条幅規定 初段以上【二月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

辻元大雲選書

習い方解説 四

辻元大雲



玄鶴夜深和月舞
（玄鶴夜深くして月に和して舞い）
蒼龍春暖抱珠眠
（郭西楚）
蒼龍春暖かにして珠を抱いて眠る

書体＝自由

前回はやや太めの単体表現でしたが、今回はやや細い線を取り入れ、表情に変化を持たせています。ほぼ単体で表現していますが、更にリズミカルに連綿させるところを2～3か所取り入れてみてはいかがでしょう。参考手本にとらわれず、自分なりの創意工夫を紙面に踊らせてみて下さい。

もっと楽しく、生き生きした作品を目指してください。

* タテ形式に限る

漢字条幅規定 秀級以下【二月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

崎井恵風選書

習い方解説 四

崎井恵風

正月の平和の気、洋々として千戸万門の春を成す。

新年にふさわしい課題を選びました。王羲之の集字聖教序を参考に、氣品高く、伸びやかな作を心がけました。「萬」を中心的に明るくまとめてください。

書体＝自由

和氣萬家春
(和氣萬家の春)
(黄鎮成詩)



恵風書

* 兼毫の長鋒筆を使用

山田梓江

百人一首のうち恋の歌が
四十三首。秋の歌が十六首。
恋の不思議や、や秋のもの
哀しきなど、定家の好みが
反映している。

梓江書



上記の手本にも書いてあるように、恋の歌が多く撰ばれたのは定家の好みでもあったようですが、その時代の貴族社会は和歌を上手に詠める人の方がもてはやされ、恋文を渡し返歌で相手の気持ちを測るというのが日常茶飯事で、恋歌が多く残されたからだとも思われます。又、春夏秋冬の歌では秋が一番多く、春と冬は6首ずつ、夏は4首ありますが、ものの哀れや寂しさなどが感じられる秋の歌が多いのは定家の情の厚さや優しさでしょ。

かなは平安時代に築かれ日本独自な文化として発展し、今も受け継がれてきていますが、ここ数年で文明が発達しすぎて文字を書くことが少なくなり残念です。隸書の練習のみに留まらずお友達などに、メールではなく自筆で手紙や葉書を書いて出してみられては如何でしょうか？

用紙＝はがきの大きさ(14.8×10cm)、白色のもの、黒インク使用のこと

書体＝自由

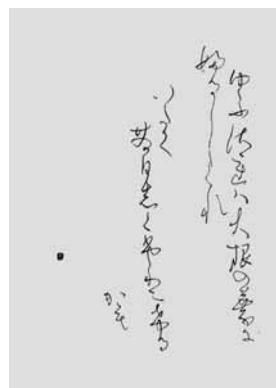
今月の

ホープ作品
各部総評 No.703

かな部 師範 近藤 淑子

参考手本を掌中に納め、しなやかな線質で一貫し、奥深い世界を表現した。学ぶことの本質美事。

◎かな部総評 手本の構成の理解が欠如した者多く残念。独自の構成へ一步進む勇気を持つこと。不安は調べてから制作を! (明子評)



かな条幅部 準師 渡邊 美荀

手本を丁寧に観察し、理解しての運筆が好ましい。この姿勢を大切にリズムの嫋やかさを加えたい。

◎かな条幅部総評 横の散らし書きはバランスの取り方が難しかったようです。字の大小、太細など過剰も目立ち残念でした。(洋子評)

帆落處暮雲平 美荀書



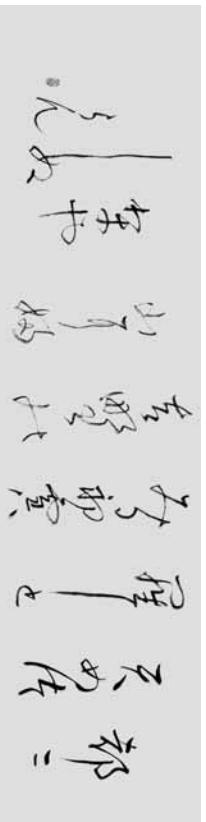
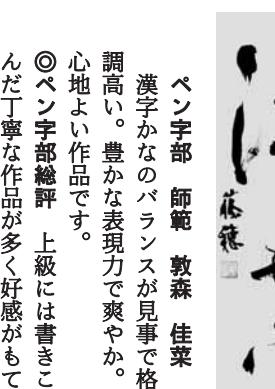
漢字条幅部 師範 蒼山 美梢

北魏の楷書を学び、安定感がある。柔毫筆を巧みに用い、厚味のある直線が上質で充実している。



◎漢字条幅部総評 下級4文字は小ぶりの作品が多く見られる。用具と署名に一考を要す。上級は多様な作品が見られた。誤字注意。(萬城評)

高鳥過時秋色動征 美荀書



現代詩文書部 特選 石崎 甘雨

美しい墨色から美しい線質が生まれる。墨と筆で楽しく紙と戯れている。見事な表現に脱帽。

◎現代詩文書部総評 只、何となく書いている作品が多く、一つの目標を持つと楽しい。(素雪評)

前衛書部 特選 佐藤 成美

ダイナミックな筆致が紙面に大きな迫力を与え、スケールの大きな作品に仕上がっている。

◎前衛書部総評 墨、紙、筆などの工夫、発想豊かな作品作りに期待します。(仙岳評)

漢字部 師範 小林 藤穂
切れ味鋭く、リズム感溢れる行書表現。やや硬目の筆の特性を生かし爽快な作となつた。

◎漢字部総評 上級4字句、書き慣れた語句で多様な表現が見られた。下級楷書を含め日頃の基礎学習が反映される。(大雲評)



ペン字部 師範 敦森 佳菜

漢字かなのバランスが見事で格調高い。豊かな表現力で爽やか。

心地よい作品です。

◎ペン字部総評 上級には書きこんだ丁寧な作品が多く好感がもてる。下位の作品は更なる研鑽を積み、落款まで配慮を! (仙草評)

今月の

特別研究部優秀作品(特選)

選評 辻元大雲 三浦鄭街 平川峰子 倉林紅瑠

臨書

(静心書道会) 田中岳舟 「灌頂歴名」



田中岳舟 臨

172×55cm

◆原帖の力強さと大小の変化をよく観察している。3行構成にまとめた力量を感じる。今後に期待する。

(大雲評)

◆重厚な線質の僧侶名と軽妙な筆致の小字のコントラストが素晴らしい。

(鄭街評)

前衛書

(松風) 西條松雲 「雪風」



178×60cm

◆強靭で躍動感のある書線と上部・下部の大胆な潤渴の変化が魅力。紙面明るく空間処理も巧み。

(紅瑠評)

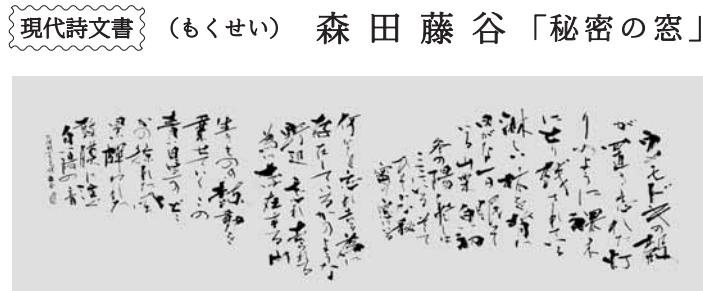
◆大胆な運筆がスケールの大きさを感じさせる作。潤渴の変化が鮮烈な印象を与え、気迫の作となつた。

(大雲評)

西條松雲 書

◆上部の小さな塊から下部の大好きな動きの渴筆へ。多様な変化の迫力ある作品になった。(鄭街評)

(峰子評)



森田藤谷 書

57×175cm

◆灌頂を受けた童子の部分を2×6尺3行構成の臨書作。大字と小字の布置見事。立体的で弾力ある筆線を的確に捉えた快作。

(紅瑠評)

◆抑揚の変化、大小の字間と余白のバランス良く、空海の自由闊達な心意気が伝わるようである。

(峰子評)

◆歌を口ずさむような美しい作。文字群の変化が、余白と共に鳴り、自然なリズムを奏でている。(大雲評)

◆3つのグループで無理のない構成。最後の集団の下の余白が全体を明るくまとめた。情緒溢れる作。

(鄭街評)

(峰子評)

◆巧みな空間処理に叙情を感じる。文字群に生氣を与えている線条は日頃から線質を追求しているからであろう。

◆横形式による上下の余白が美しい。変化に富んだ字形と切れ味鋭い筆線がリズムを生み、爽やかな気分を醸し出している。(紅瑠評)

◆暢達した筆致で、大きく広がりある臨書。大字と細字のバラソスも自然な雰囲気を醸し出している。

(大雲評)

◆濃墨と羊毛筆から生まれる粘り強い筆線と、氣宇大きく豪快な筆致が心地よい。押印一考を要す。

(紅瑠評)

◆灌頂歎名はどの部分をどの様に表現するか迷ったと思う。線質に変化があり、バランス良く収まった。

(鄭街評)

◆空海が唐で顔真卿の書を学んだことが窺える歎名の一部分を、強弱の変化と弾力性を出し見事に仕上がった。

(峰子評)

◆大胆で力強い運筆が、スケールの大きな世界を出現させた作。思い切りのよさと最後の落款が素敵。

(大雲評)



133×35cm

臨書 (華祥社) 加藤和栄 「灌頂歎名」

加藤和栄臨

漢字 (八街) 小川白柳 「飲中八仙歌」

174×55cm



小川白柳書

◆細線を駆使して抑揚のある行草作品。行間を広めに取る事で全体を明るく仕上げた。更なる精進を期待。

(鄭街評)

◆広い空間を流麗に書き進め、字形の変化と線質に鋭さを加えながらの作品は、自由に明るく仕上がってている。

(峰子評)

現代詩文書 (大拙社) 嶋中成山 「桑田佳祐の詞」



60×180cm

嵐山成中書



133×35cm

臨書 (華祥社) 加藤和栄 「灌頂歎名」

加藤和栄臨

漢字 (八街) 小川白柳 「飲中八仙歌」

174×55cm



小川白柳書

◆細線を駆使して抑揚のある行草作品。行間を広めに取る事で全体を明るく仕上げた。更なる精進を期待。

(鄭街評)

◆広い空間を流麗に書き進め、字形の変化と線質に鋭さを加えながらの作品は、自由に明るく仕上がってている。

(峰子評)

◆小気味よいリズムが行の流れに変化と豊かな表現を与えている。柔毫筆ののびやかな線が美しい。

(大雲評)

◆巧みな筆捌きから生まれる変化に富んだ筆線が美しい。歯切れのよいリズムが心地よく、技量の高さが窺える。

(紅瑠評)

◆重厚かつエネルギー溌シユな筆致で紙面に豪快さが漲っている。スケール大きく、長く引くという大胆さが魅力的。

(峰子評)

◆力強い線でグイグイ進む。多少強引さを感じるが若さと勢いが上回る作となつた。落款一考の余地あり。

(鄭街評)

創作の部
漢字 14点
かな 12点
現代 19点
前衛 10点
篆刻 15点
臨書の部
漢字 17点
かな 10点
篆刻 10点
前衛 11点
现代诗文書
漢字 11点
秀恵 阿部 雅悠
千葉 竹浪 叙舟
「かな」
水野 伊澤 香雨
青蓮 大町 菜円
角田 坂田 翠江
篤信 三浦 朱鳳
「現代詩」
前衛
「漢字」
樹原 紺野 遊山
大雲 宮原 香扇
「臨書の部」
47点
総出品点数
47点
特選候補者
(創作の部)
(篆刻)
(前衛)
(现代诗文書)
(临书)
(汉字)
(现代诗)
(前卫)
(篆刻)
(临书)
(汉字)

漢字研究部
(灌頂歴名)

選評 小浜 大明

今月のホープ作品



本 瞳 月

漢字研究部 特選 笈 瞳 月

卒意の書を感じさせる伸びやかな明るい表現です。全体の配字も良く、用筆も見事です。

◎漢字研究部総評

この古典は、心覚えのために書き流した書であり、空海の自由闊達な書風を知ることの

できる貴重な資料です。従って自由な表現を念頭におきながら開放的な境地で臨書されると良いと考えますが、やはりそこには正しい筆法と、正確な行草体の知識が必要になると 思います。秀作が多かった中に誤字も多くありました。特に「興」の字です。不明な部分は字典を参考に、調べてから臨書されることをお勧めします。



千杏蘭清智佐
秋邑花美恵子

千藏良萩恵白
千代子月章雨子雅

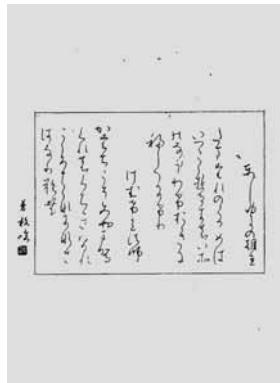
翠美雅春瑞恵
玉枝芳漱華泉

千白珠敦真
千枝子洋草葉子弓

かな研究部
(曼殊院本古今和歌集)

選評 佐藤希雲

今月のホープ作品



閔口芳枝

かな研究部 特選 関口芳枝
清らかな細線が印象的な臨書です。行間の取り方が適切で、落ちついた空間構成となりました。今後は、太い線の表現をぜひ身に付けて下さい。

かな研究部成績表

永幸翠佳洋紀サ清惠和美
朗代子子子子子子子子
簞雲景子子子子子子子子

高白久紅八正 井鷺真賀風街秀	澄洞玉大若長石千大八紅正た上大千た有春蘭大菊清紅蕙 春書松雲葉月習葉雲街瑤華か泉雲葉か秋汀鼎雲月月風書	特選
榎江梅岩岩石石 田口山澗田渡川 佳作 <small>(50首)</small>	植安青鶯工原松菊草井須岡浜早堀松梅石渡市磯新境田閑 田藤木山藤澤丸地刈上田田野部切重津川子川貝井野烟口 佳作 <small>(50首)</small>	関口
和茉久祥代津津 子悠子苑子徑子	紅楊葵美山典愛泰眞芝香麻永 幸翠代洋紀チ清惠和美芳 雨風鄉梢房子石峰華雲丹美笠朗雲景子子子子子子子枝	寿美芳
光彩佳	東あ高長前東玉水白水天千たや明菊蕙潮樹蒼高た墨千う東大秀こ樹書梅椿 伯か崎月橋向松海珠堅璋葉かま漢月書音原陽崎か花葉る向雲韻こ原游株翠	
浅川みな江 作 <small>(50首)</small>	山本松増春昌橋根西永中戸樋田嶋坂齋近込小小久木菅河加加葛 小大 本吉浦田山山本岸山井里村泉玉 本藤藤山峰林口保村野合納藤 野西島 と 美木	昌
	眞明玉佳勝芝紅み葵悦星博雪哲称悦り杏淑美加見智曾順和と順翠恵よ 紀香江子子美香露子龍子子舟簾子子美風子子代敬子陽美よ 子	一昌

椿游文白
翠水珠筆
入
京明昌孫竹幸無椿竹中大澄蓮澄京 蘭玉^ノ上青高上譽旭童甲土高誠澄明的光竹高澄芳大梓旭大玄中^ノ誠う水澄
橋漢苑韻美扇門翠美川雲春紅春橋 鼎松^ノ泉蓮崎泉田老泉和氣崎和春漢か彩美崎春蘭雲江老阪穹川^ノ和る海春
安荒青相
藤川木内
連(60)
吉吉吉横山山安八三三增本深春黔林長萩根沼二中中高高高杉神新島猿櫻櫻酒齊黒川加鍛尾大入石飯飯阿
田田田川山本中嶠木田浦田田堀岡尾 谷原岸田通村野橋橋藤田宮谷行 渡田井田藤藤柳元瀬治形島谷崎高泉天
美 真橋 千 か 川 シ 息 内外
裕知沙利
代子泉子莉
佑樹翠幸蘭梅清砂紀蒼道華美清聰ひ雅千洋正奎麗ゲ美真雅松祥玉翠美真簾智知翠江竹茱晴俊紅竹悠甘幹洋
子子綾恩舟香玉子舟舟子秀雪洗春る子峰子子心子子薰泉美風枝光華子右貞舟子香彩葉仙美亮霞鳳花雨生子草
墨正富扁竹書春正八声八富春澄英や樹翠大大竜生大伏華白富大華澄青大明澄蕙も渡白附た誠^ノ澄竜帝八彩花華塚八あこ坪
縁華貴筆原游汀華雲香街貴寅春峰ま原吟阪雲泉大阪華仙扇貴阪祥春蓮阪漢書く辺驚中か和^ノ春塚街 舞祥 生かだ和
鈴杉菅新代庄下柴七筆佐佐齊斎齋紹近小高吳北岸岸菊神金金加加小小小岡岡大大大梅鶴字岩今今井伊伊板石石五安
木浦原條田司田田條野々々藤藤藤野藤林武 又本 地田谷岡藤瀬野野澤川村部沢木石木澤井瀬村木ノ藤垣田川井十廟
幸 加 木子木木 か 由 三三三口佳 風
節幸昌三葉咏代洋裕徳美芳和靜早つ遊閑萩玄豊春秋萩民惠典美萩雅夏朱萩和輝紀藤淳歩枝簾琴楠祥貴等春敏悦青悦代裕
子子郎子艸子子善子東子子涼苗子山窓江城善峠蘿子水子和善苦峰屋光子峠子瓊子佳子山舟闘蘭泉蘿峰子子鳳子子学

芳正華祥や華高華玉蘭八春生硯大白生華上A生誠有光大長琇正は高北澄泉一大大天 大も堺泉秀生玉玉澄上青玉
選蘭華仙紫ま仙真仙川鼎街汀大水阪露大仙泉I大和秋昭阪月韻華せ陵原春会葦雲阪璋”阪く会畠大松川春泉峰川
63渡鷺山山山柳谷森村宮宮宮松牧前本堀藤福福廣平林林長丹仁浪永中中中富戸利辻筑田田高高平閥鉛鉛
名氏氏名略邊沼山山山口岸瀬知上野下澤坂村野川多江本原田井地山 谷羽木川田村林西里江原田部守井村中原橋不干
信将美律子奈美直子佳月樂草萩秋清瑛和幸喜里流久美奈美久惠美光秋時一清惠亮よ扇蘿藤佳洋宏春耶自貞代心子
信源太楓京翠秋苑子次仙枝景惠頭源子幸子美子子花子琴香子子水彩風紀理子子華衣子苑杏華

※下記の写真掲載部分の中から規定の文字数を
臨書する。掲載以外は違反となります。

懸 諸 日 月 既 而 仁 獄
非 時 鳴 鳥 弗 至 指 人

懸諸日月既而仁獣／非時鳴鳥弗至哲人

（楷書）

漢字部

第二種

半紙に写真掲載の中から4文字を臨書

太子左右衛率右庶子／洪吉江虔饒袁撫七州／諸軍事洪州撫（總）管安平
蘇慈墓誌銘（楷書）漢字部 第二種 半紙に写真掲載の中から4文字を臨書

諸 軍 事 洪 州 撫 管 安 平
太 子 左 右 衛 率 右 庶 子
洪 吉 江 虔 饒 袁 撫 七 州
凌 饒 索 撫 七 州
子

太子左右衛率右庶子／洪吉江虔饒袁撫七州／諸軍事洪州撫（總）管安平

<90%縮小

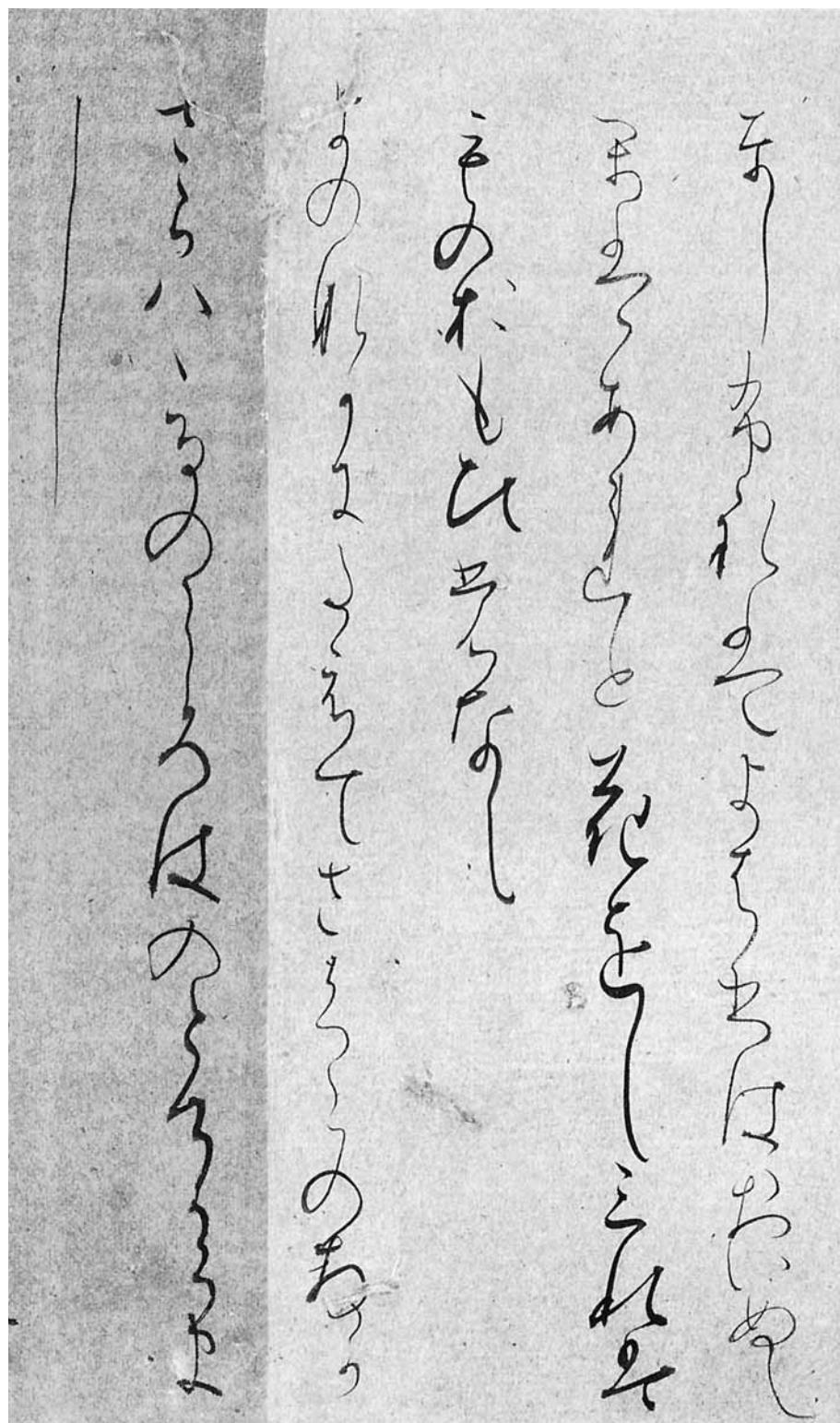
まよひすゑ
たれゆきとまわら
うるわまのあく
けくみ
さくらのつまひのほく

おもへどもなほうとまれぬはるがすみ春可
能道支々者
おもへどもなほうとまれぬはるがすみ春可
能道支々者
はるのゝのしげきくさばのつまこひに尔
とびたつきじのほろゝとぞなく

あまの能可がはくべすゞしきたなばたにアホアふぎのかぜをなほやかさまし七夕扇合
あまの可者がはくべすゞしきたなばたにアホアふぎのかぜをなほやかさまし七夕扇合
あまのがはくべすゞしきたなばたにアホアふぎのかぜをなほやかさまし七夕扇合
あまのがはくべすゞしきたなばたにアホアふぎのかぜをなほやかさまし七夕扇合

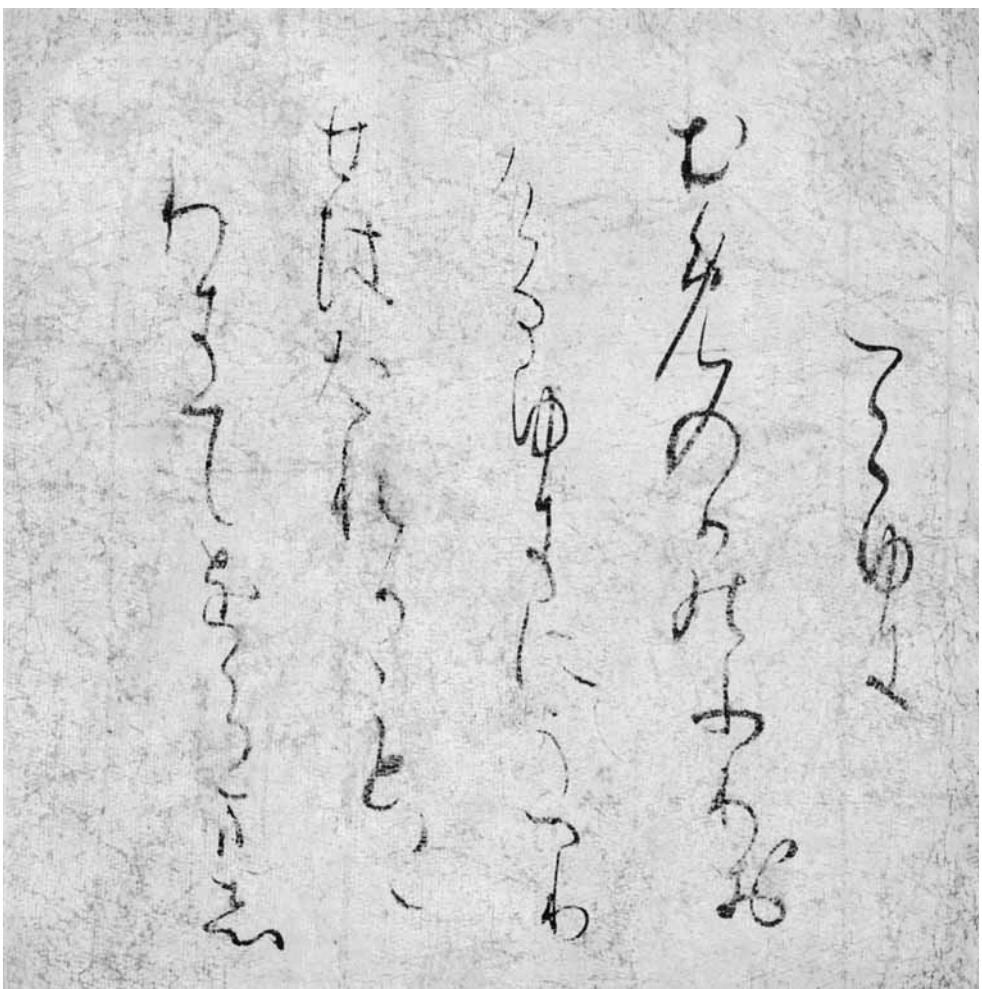
ああれうは、（ほ）とされまし、
うののせをしてやうめ
ああのまあすまがせまもウタ
ひもみやうつてまのまきえ
す

東 布 礼 盤 者 悲
とし ふ れば よは ひは おい ぬし / かは あれど 花を しみれば / もの のおもひもなし
那 可 尔 多 敷 可
よの な かに たえて さくらの さか / ざらば^{八(は)}るの こゝろは のどけ からま / し



<原寸大>

△原寸大△



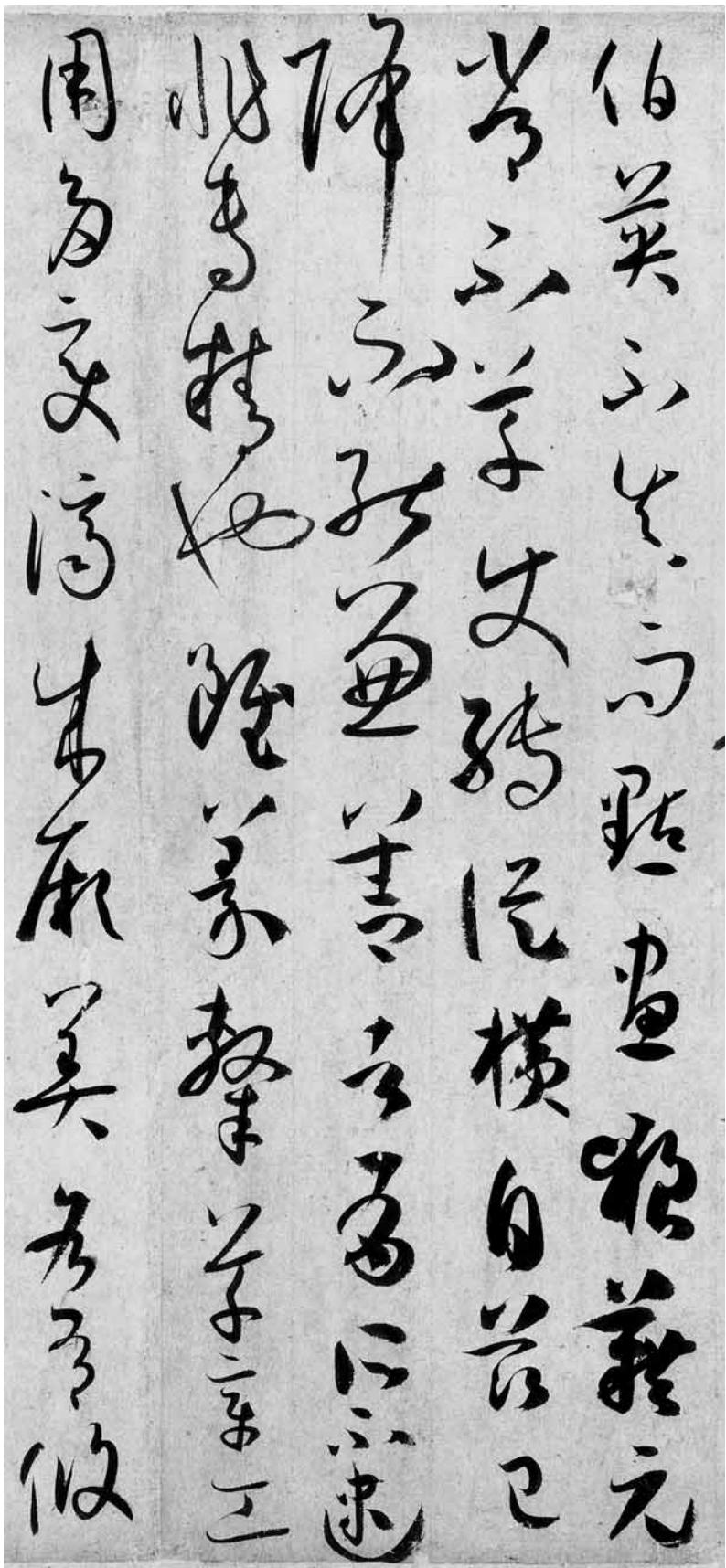
料紙可
たて13.5センチ×よこ12センチ原寸大
の枠を半紙にとり、その中に書く。
と。落款は枠外に書く。○○臨
印のみも可。(枠外に押印)
別紙を裁断して貼付してもよい。

つらゆき^支むめのかのふりお^利けるゆきにうつり^利せばたれかことぐ^可わきてをらまし^支
万志



東郡太尉裂壤於槐里。司徒祚土於耏門。是以車服旌其器能。

聞之端揆者百寮之上長法無
人臣之極地今僕射挺不朽之功業
當人臣之極地豈不以未為世出功冠
一時挫思明跋扈之師抗迴紇
聞之。端揆者百寮之師長。諸侯王者／人臣之極地。今僕射挺不朽之功業。／
當人臣之極地。豈不以才爲世出。功冠／一時。挫思明跋扈之師。抗迴紇無



伯英不眞。而點畫狼藉。元「ノ」常不草。使轉從橫。自茲已「ノ」降。不能兼善者。有所不逮。非專精也。雖篆隸草章。工用多變。濟成厥美。各有攸用。為文清生風美。考之似。